

有明海養殖ノリの流通に関する研究

有明海研究所

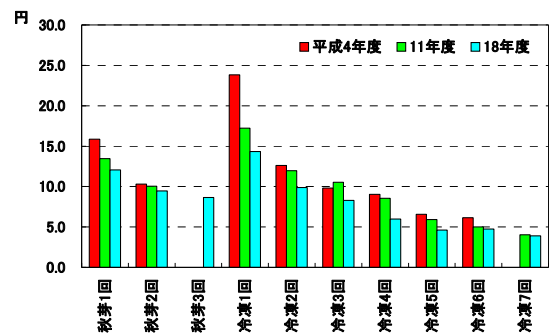
背景、目的

有明海の主要な漁業であるノリ養殖業は、中国ノリの輸入解禁、燃油高騰、生産者価格の低迷などにより、厳しい経営環境に置かれています。ノリ製品の品質は向上し、生産量も安定しているにもかかわらず、生産者価格が低迷していることから、価格が決定される入札の状況を解析し、ノリ共販制度が抱える問題点を明らかにしました。

成果の概要

(1) 入札回別平均単価

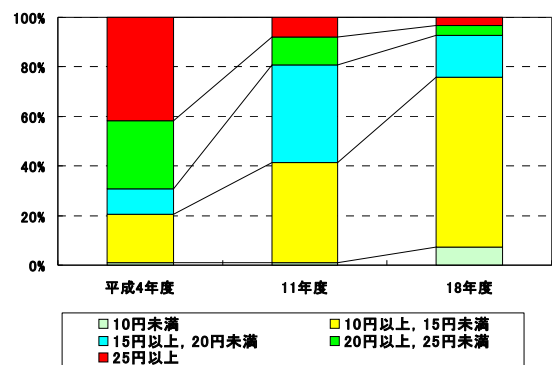
ノリの平均単価を平成4年度、11年度、18年度で比較すると全ての入札回で18年度の平均単価は低く、特に、秋芽1回目、冷凍1回目の入札における平均単価の低下は著しい状況でした。



入札回別の平均単価の比較

(2) 冷凍1回目入札の単価階層

冷凍1回目の入札で各年度の単価を比較したところ、20円/枚以上の高価格帯が激減しており、このことが平均単価低下の要因の一つと考えられました。



冷凍1回目入札の単価階層の推移

(3) 等級格付数

平成4年度に比べて18年度では秋芽1回目入札時は、等級格付数（銘柄数）は1.7倍に、冷凍1回目入札時は、約2倍に増加していました。

このように、等級格付が細分化され、多くの銘柄が作り出されたため、1銘柄への買付業者の競合が減少し、入札本来の競争原理が機能しなくなったと考えられました。

等級格付数と出品数の推移

	秋芽1回目		冷凍1回目	
	等級格付数	単価(円)	等級格付数	単価(円)
平成4年度	138	(1.0) 15.85	102	(1.0) 23.82
11年度	213	(1.5) 13.45	174	(1.7) 17.22
18年度	239	(1.7) 12.04	215	(2.1) 14.33

() は平成4年度を1.0とした比率

